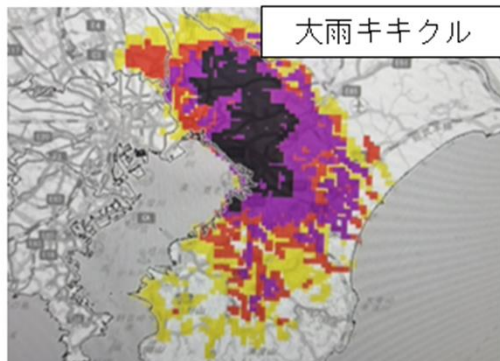


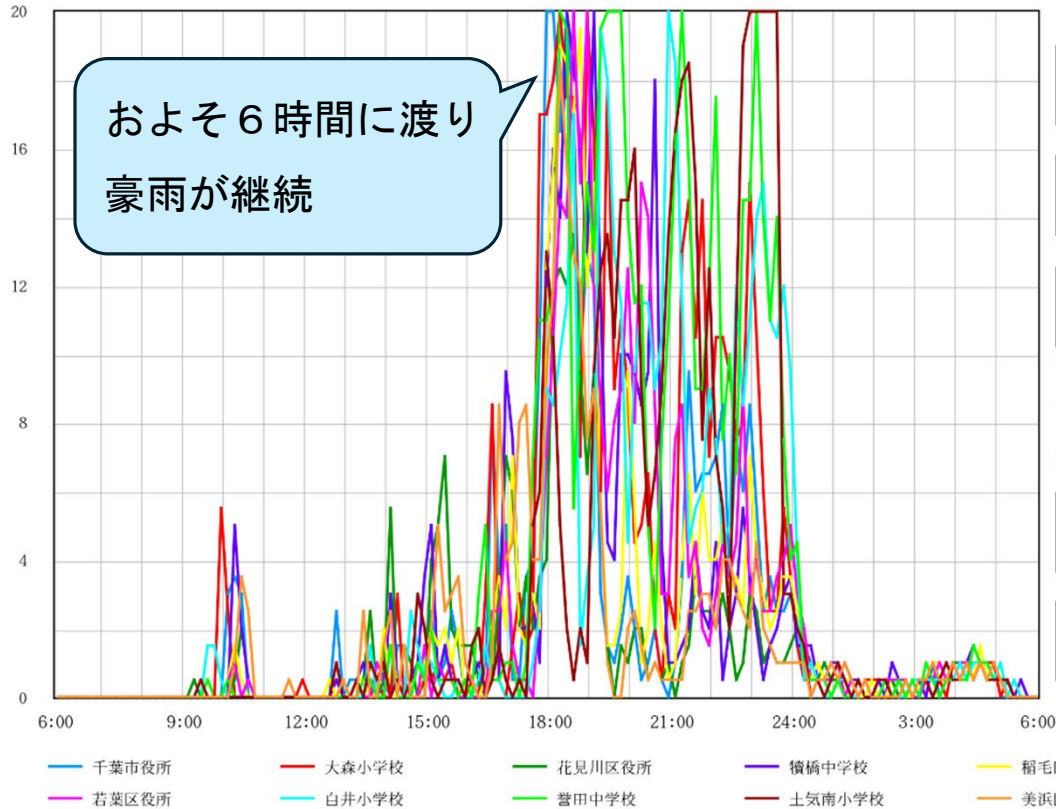
令和8年8月千葉豪雨被害の概要 ①

- (1) 発生日時 令和8年8月13日(木)
- (2) 気象の概要 市内各地で60分雨量100mm超え、全国初のレベル5大雨特別警報発表。千葉市緑区では、13日に最大1時間降水量135mmを観測し、降り始めから15日13時までの累計雨量は、585mmとなった。これらはいずれも1966年の統計開始以来の極値を更新した。
- (3) 避難情報 帰宅困難者が多数発生、市施設や県庁等一時滞在施設11か所開設し、約3,700人受入。市内56か所の避難場所を開設し、最大744人が避難。
- JR蘇我駅周辺では、駅前ロータリーの浸水により、一時、約5,000人が駅の中に滞留し、身動きがとれない状況になった。
- そのため、自衛隊に災害派遣を要請し、一時滞在施設への輸送を実施した。

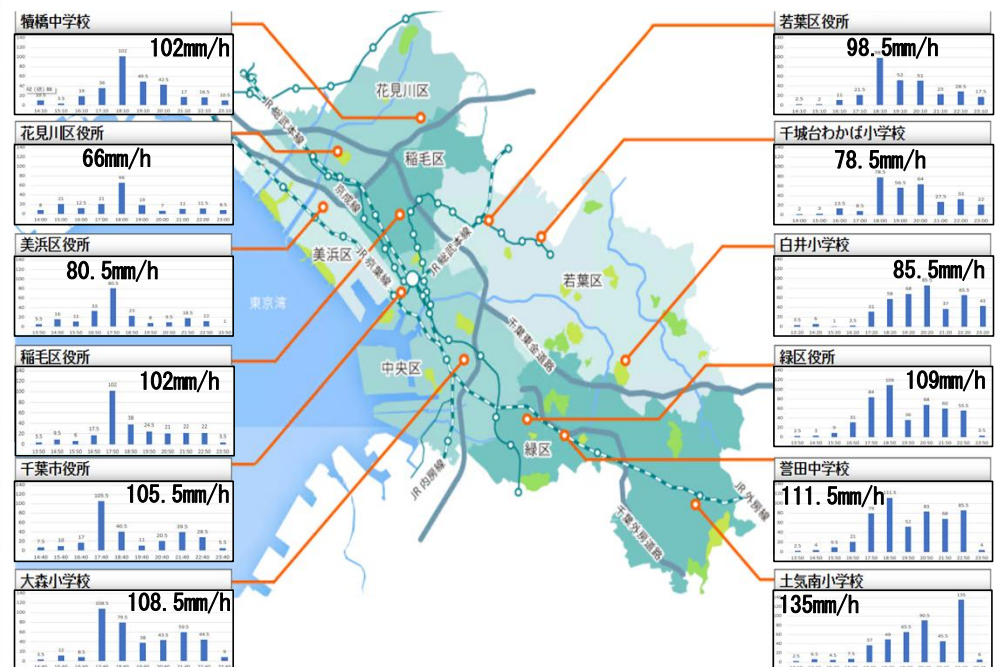


令和8年8月千葉豪雨被害の概要 ②

10分積算雨量 日報グラフ（市内12カ所の雨量計）



令和8年8月千葉豪雨 観測地点ごとの1時間雨量データ



今後の雨水対策について



記者発表資料

令和8年9月14日
建設局下水道企画部
総合治水課
電話 245-5436

都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会を設立します

千葉市では、令和8年8月千葉豪雨を受け、被災者の皆さまが1日も早く日常を取り戻せるよう、復旧を最優先に全庁をあげて全力で取り組んでいるところです。

このたび、今回の豪雨災害による都市型水害を踏まえ、今後の雨水対策に関するハード整備水準やソフト対策を組み合わせるどのように被害を軽減するかなど、雨水対策のあり方を早急に検討するため、有識者を委員とした検討部会を設立しますので、お知らせします。

1 「都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会」

(1) 設置目的

都市型水害を踏まえた今後の雨水対策に関する整備方針などのあり方の検討

(2) 委員等

委員長 森田 弘昭 氏（日本大学教授・博士（工学））
委員 山縣 弘樹 氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究室長）
西 修 氏（地方共同法人 日本下水道事業団 事業統括部長）
大学教授（1～2人調整中）

(3) 設置日

令和8年9月14日（月）

2 第1回会議について

(1) 開催日

令和8年9月下旬～10月上旬（予定）

(2) 場所

未定

(3) 議事（予定）

- ・令和8年8月千葉豪雨の気象状況および被害状況について
- ・本市の雨水対策の現状と課題について

ほか

※詳細が決まり次第、改めてお知らせします。

※第2回以降の開催（開催日、開催回数、検討内容については調整のうえ、公表する予定です。）

「都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会」の設置について

市長コメント

令和8年8月千葉豪雨は、全国で初めて「レベル5大雨特別警報」が発表されるなど、本市の観測史上最大の降雨であり、市内各地に甚大な被害をもたらしました。

今回のような想定を超える豪雨は、他県においても発生しており、もはや一時的な異常気象ではなく、新たな気候環境のもとで発生した災害ではないかと考えております。

本市といたしましては、まずは復旧を最優先に、被災者の皆様が1日も早く日常を取り戻せるよう、引き続き全庁をあげて全力を尽くしてまいります。

同時に、都市型水害という今回の豪雨災害を踏まえ、雨水対策のあり方を早急に検討していかなければなりません。

その検討にあたり、本日、有識者を委員とした「都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会」を立ち上げました。

今後、有識者のご意見をいただきながら、ハード整備水準をどのように設定するかや、ハード整備だけでは限界があるためソフト対策を組み合わせるどのように被害を軽減するかなど、雨水対策のあり方について、スピード感を持ってしっかりと検討してまいります。

また、広域的な内水・外水対策についても県と連携して検討していくほか、床上浸水対策の前提となる内水ハザードマップについても検証を行ってまいります。

これらの検討や、今回の豪雨災害で課題が顕在化した、アンダーパスやマンションの浸水対策、帰宅困難者対策など、全体の検証も進め、その結果を今後の防災・減災対策にも反映することで、都市レジリエンスの強化を図り、市民の皆さまが、より安全・安心を実感できるまちづくりに取り組んでまいります。